

八高時代の木村^{もとお}資生 — 世界的な遺伝学者の原点 —

先日、ある行事に参加するため岡崎市せきれいホールに行った際、思いがけず名大史にまつわる記念物を目にする事ができました。ダーウィンの進化論に修正を迫る「分子進化の中立説」の提唱で世界的に著名な遺伝学者、木村資生博士の銅像です。木村は、名大旧教養部の前身、旧制第八高等学校（八高）の卒業生でした。

1924（大正13）年に愛知県岡崎市に生まれた木村は、地元の愛知県岡崎中学校（現愛知県立岡崎高等学校）に入学しますが、その頃に植物が大好きになり、植物学者を志します。それには大学に行く必要があり、そのためには高等学校に、ということで、岡崎から最も近い八高を志願し、1942（昭和17）年4月に入学しました。

八高で木村は、のちに「人生の大切な恩人」と評した熊沢正夫教授に出会います。植物学を専門とする熊沢教授は、ちょうど木村の入学と同時に金沢の第四高等学校から赴任してきたのでした。その後、名大教養部教授と

なり、停年まで勤めることになります。

木村は熊沢教授に師事し、その研究室に机と椅子をもらい、授業後は毎日のようにそこに入りびたつたと回想しています。木村の弟で、分子科学者の木村克美（名大理学部卒業生）の回想によると、木村は実家から電車で名古屋に通っていたが、毎日帰宅が遅かったそうです。やがてユリ類の染色体の研究を熊沢教授の指導の下に行うようになりました。それには高倍率の油浸レンズの顕微鏡が必要でしたが、熊沢研究室の備品や熊沢の私物を使い、夏休みには顕微鏡を借りて来て自宅で研究していたそうです。

木村は、1944年9月に八高を卒業し、京都帝国大学理学部に進学しますが、46年には熊沢教授と連名で、『遺伝学雑誌』にユリの染色体に関する研究報告を発表しています。木村の遺伝学者としての原点は、八高時代にあったといえるのかもしれませんが。



- 1 岡崎市せきれいホール前の「木村資生博士之像」（2024年4月撮影）。1998年に岡崎竜城ライオンズクラブが建立した。木村博士は生前に岡崎市の名誉市民に選ばれている。
- 2 木村資生（1924-1994、写真は1979年、提供:国立遺伝学研究所）。国立遺伝学研究所名誉教授。日本学士院賞（1968年）、文化勲章・文化功労者（1976年）、全米科学アカデミー賞（1987年）、英国王立協会ダーウィン・メダル（1992年）など。
- 3 熊沢正夫（1904-1982、写真は1930年頃）。八高の卒業生でもあった。登山家でもあり、名古屋大学山岳会会長を務めた。
- 4 木村博士在校当時の八高記念祭（1942年5月）。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp